

庄内町立図書館だより

よめっちゃ

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2017.7.26(No.25)



図書館カレンダー ★開館時間

⇒休館日 平日 午前9:00～午後7:00

⇒10冊貸出 土日 午前9:00～午後5:00

8

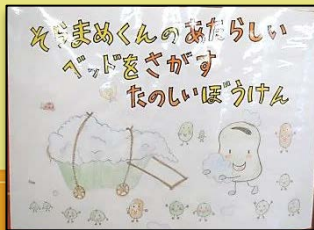
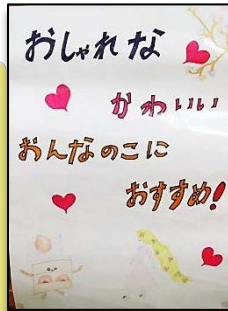
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

みてみて

余目中学校の生徒さんが  
図書館で職業体験!



みなさんが作ってくれた  
おすすめ絵本コーナー

こども読書室  
にあります

おはなしらんど ★ 8月はとくべつ!

つちだよしはる原画展で出張おはなし会

☆日時: 8/12(土)・14時～

☆会場: 内藤秀因水彩画記念館



平成29年度 企画展 ～8/31(木)  
「龍神様(神龍)への祈り」  
◆21年ぶり里帰り展示「須恵器(祝部式土器)大埴」◆  
\*\*\*七つの星球クイズにチャレンジしてみよう!\*\*\*

◆◆月山龍神まつり◆◆  
「虫かご雨」の音  
※触ってみよう!

歴史民俗資料館の中に「七つの星球クイズ」が隠されています。クイズに答えて、ミッションをクリアせよ!!そして、その先には...

休館日 毎週月曜日  
※日曜日が祝日の場合は翌日  
開館時間 10時～16時  
入館料 無料

庄内町歴史民俗資料館

つちだよしはる絵本原画展

みんなの図書館 Part 3

開催中! ☺  
～8/27(日)

描いてくれた作品も展示しています

カウンター前のぬりえコーナー

記念館には、ここには入りきらないくらい  
たーーーーっくさん作品があつて...  
なかには大人の背伸びより大きいものも... 🌟

まだまだ開催中! ぜひお越しください

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館HP→<http://www.town.shonai.lg.jp/library/>

〒999-6601 庄内町狩川笠山 390

0234-56-2409

【問い合わせ先】

庄内町教育委員会文化スポーツ推進委員会

0234-56-3312 まで

幽霊？そんなもの倒してしまえ！

世界で1番熱い夏！

職員書下ろし  
推薦文テーマ



## 熱血猛者揃い庄内町立図書館 猛烈オススメ本！！

『文藝春秋オピニオン2017年の論点100』（文藝春秋）

「尖閣問題」や「中国・北朝鮮の問題」、「天皇陛下下の退位」や「憲法9条改正問題」、「アベノミクスの行く末」や「豊洲移転の問題」、「がん治療」や「科学の先端技術」のこと、「錦織圭の世界制覇」や「ウナギやマグロの消滅の危機」「SMAP 解散」等々、今の日本で起きている100人の社会問題について100人の各分野の一流アナリストや本人が『論点』を教えてくれる最新最強の情報雑誌です。毎日、テレビ、ラジオ、新聞、週刊誌等で伝えられている断片的な情報がこの1冊に集積されています。

これを読めば、職場でどんなニュースが話題になっても余裕で仲間入りができ、時には熱い議論もできます。今を生きる社会人の情報ツールとしてぜひオススメしたい1冊です。



『マリコ、炎上』 林 真理子／著（文藝春秋）



炎上は比喩の言葉ですが、今回のテーマ「熱血」ならぬ熱量を感じ、思わず選書（林氏の直木賞受賞作『京都まで』の冒頭、「ホームに着く直前、列車はトンネルに入る。その時、窓は女の鏡となった」の、まさに情景が目浮かぶ描写等に魅かれてから愛読。林氏に傾倒しているせいもありました）。

本著は林氏の飽くなき好奇心と覚悟に裏打ちされた切れ味鋭いエッセイ。インターネット上で議論を呼んだ、ある事件についてのエッセイを全文収録。実に都合よく文章が切られたネットの内容と、林氏の意図が伝わるエッセイの全文。その違いを、じっくり読み比べてみませんか？

余談ですが、林氏の著書『怪談 男と女の物語はいつも怖い』は、人に言えぬ恋に落ちた2人に忍び寄り、巧緻に仕上げられた無残な露見、恐怖の瞬間、身も凍る奈落への10の傑作短編。夏の暑さ、熱血を一気にクールダウンさせるのにオススメです！



『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』

川上 和人／著（新潮社）



熱血というと、体育会系なイメージがすぐに想起されますが、学問や趣味、仕事などに打ち込む人々の「ひそやかな熱さ」もまた魅力的です。

本書は、鳥類学者である筆者が鳥の生態や自身の研究について綴った作品です。筆者により矢継ぎ早に繰り出される小ネタが可笑しく、思わずにやけてしまいますが、そうした（書名を含む）茶化しの裏にある、鳥類や鳥類研究への熱い気持ちが文章の節々から伝わってきます。自分には考えもつかない生き方や世界を知るのが面白い！と改めて思わせる1冊であり、鳥類学に全然興味がない方にこそおすすめしたい本です。

冒頭の「好奇心があってもきっかけがなければ、興味の扉を開くどころか扉の存在に気付きもしない。」という言葉からは研究者としての筆者の意識が感じられます。図書館が、未知の領域と出会うきっかけの場となれば嬉しいです。



『ワーキング・ホリデー』 坂木 司／著（文藝春秋）



元ヤンでホスト、そんな彼の前に突然現れ、「息子」と名乗る小学生の男の子。夏休みの間だけ一緒に暮らすことになり、父である彼は宅配便のドライバーへと転職します。つついんやんキーの血が騒ぐ父と、ゴミの分別も出来るしっかり者の息子。

急に現れた「息子」の存在にとまどい、理想とは違う「父」に落胆する。会話もまるで兄弟ゲンカ。そんなぎこちない2人がいろんな人と繋がり、人として父子として、成長していく物語です。

不器用でも「父親だから」と奮闘し、父になっていく主人公の姿にアツいものを感じることが出来ると思います。



『赤ヘル 1975』 重松 清／著（講談社）



熱血＝野球以外、考えられない私である。（実は野球狂）。数ある野球小説で1冊を限定するのは至難の業であるが、野球ファンならずおすすめなのはこちら。

今でこそ首位を独走し（7月現在）、「カープ女子」に囲まれる国民的注目チームであるが、長年弱小球団、貧乏球団と揶揄されてきた「広島東洋カープ」。原爆投下後、燃え尽きた街に、この球団が果たしてきた役割に圧倒された。

広島という街の悲しみが、苦しみが、怒りが、祈りが、そして希望がー1975年、真っ赤な奇跡へとつながる。主人公の少年たちの成長を通して、熱血ミラクルは語られる。

プロ野球人気に翳りが出ていることに、私としては暗澹とする日々だが、ぜひ皆さん、こういった1冊を手にとってみてください！

そして最後に...何の見返りもないのに、赤の他人に無償の愛を注ぐ我ら野球ファンは、永遠に不滅です/笑

